

文化財と ご利益さん



11月31日「金」夜七時より講師に藤本真事氏（南国市史談会会長）を迎えて「南国市の文化財と御利益さん」と題して講演があった。

私達の住む南国市は中世・近代は文化・政治の中心地であった。古くは国分の国分寺（七三九年建立）から始まり、比江の紀貫之で有名な土佐国衛跡、日章の「田村の土居」と言われる守護代の館跡、そして近代では長宗我部元親に代表される岡豊城の存在である。

一六〇一年、山内一豊が高知城を築城するまでの約八〇〇年間、今と言う県庁所在地は南国市にあったと言っても過言ではない。

高知市に県庁所在地が移ってから（一六〇一年から）四〇〇年だから南国市はその二倍、八〇〇年間、京都と同じく「古都」として君臨していた事になる。それだけに見るべき文化財・史跡は数多い。

今回、藤本先生は南国市の南半分の史跡や御利益さんについて語られた。特に地元香長平野地域のお話

が多かった為、興味津々と聞き入った。

幕末に造られた前浜の砲台跡、田村の掩体群（飛行機の格納庫跡）、北村沢吉博士が建設した日章園の歴史、菅原道真の愛蔵の白梅が御神体となる立田の天満宮、旧日章駅前の経塚など身近な文化財だけに日頃見ても歴史を知って改めて感動のひと時に浸った。

最後にマジックショーのおまけまであり、拍手喝采で幕を閉じた。

和田真一さん（福船）寄稿

マイ孫



マイ孫

なんでこんなに可愛いのかよ 美羽という名の宝ものじい

ちゃんあんに そつくりだよと人に言われりや嬉しくて：：大泉逸郎

ほんまに、えいねえ

明るく元気に育つて欲しい
黒岩政春さんのお孫さん
美羽（みう）さん一歳

編集後記

ねずみ年を迎えて、地域の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのことと存じます。昨年「偽」の一文字に象徴される様に余り面白くない出来事が多かったように思います。今年こそは、未来に明るい希望のもてる年にしたいものです。

この岩村ふれあい便りも創刊以来第9号を数えることになりました。本号への投稿にご協力頂いた方々に感謝すると共に、今後とも積極的なご投稿を宜しくお願い致します。本広報の編集に對しまして、是非ご意見、ご批評、ご助言等お寄せ下さいます様よろしくお願い申し上げます。